

一般質問

定例会では、提案された諸議案に関係なく、議員自身が議長に通告し、市長及び関係理事者に質問する日（一般質問日）を設けています。今定例会は、12月15日、16日に8人の議員が活発な質問を展開しました。ここにその一部を掲載します。詳細は、市議会ホームページでご覧いただけますので、是非ご利用ください。

一般質問 森下みや子 (公明党)

持続可能な開発のための教育

問 持続可能な開発のための教育（ESD）は、環境や貧困、人権、平和、開発などの現代社会が直面する多様な課題を全ての人が自らの問題として捉え、持続可能な未来の実現に必要な知識や技能、生活態度や価値観等を身につけることを目指す教育で、ユネスコが主導機関であり、国の第2期教育振興基本計画にも重要性が明記されている。ユネスコスクールはESD推進の拠点として位置づけられ拡大しているが、本市でのユネスコの活動状況とユネスコス

クールへの加盟状況及び活動内容は。

答 平成21年3月に、飛鳥・檀原ユネスコ協会が設立された。当協会は、地域の各団体の長を理事とし、明日香村、桜井市、高取町、本市との連携により活動が進められ、特色を出すため世界遺産保全支援事業に力を入れ、飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群の世界遺産登録に向け積極的に支援推進を行っている。ユネスコスクールには、畝傍中学校と今井小学校が加盟している。

問 ユネスコスクールへの加盟校拡大に向けた取り組みは。

答 現在、新たに白檀北小学校が加盟登録申請中である。白檀北小学校は、校区の自然・文化・歴史に関する学習を出发点とし、地域の課題と地球的諸課題をつなげ、主体的に

会派名簿

公明党 (4名)
大北かずすけ・亀甲義明
森下みや子・成谷文彦
日本共産党 (2名)
竹森 衛・西川正克
至誠会 (2名)
小川和俊・奥田 寛

行動できる児童の育成を目指すことに取り組んでいる。

女性の元気応援プラン

問 女性が生き生きと活躍できる社会構築のためには、女性が安心して、やりがいを持って働き続けられる環境を整備することが課題である。女性の活躍の基盤となる健康推進と女性の安心・安全の確保について聞きたい。がん対策推進基本法に基づく計画では、2016年末までにがんによる死亡率を20%下げる目標を掲げている。がん検診受診率向上の取り組みとして乳がんや子宮頸がんにおける検診無料クーポンの配布事業は、多くの女性から喜ばれているが、本市のがん検診の受診状況と今後の受診率向上に向けた取

真政会 (3名)
杉井康夫・竹田きよし
榎本利明
政志会 (2名)
たけだやすひこ・松木雅徳
自由民主党 (2名)
細川佳秀・奥田英人

檀原未来 (3名)
宇佐美孝二・廣井一隆
大保由香子
いずれの会派にも所属しない議員 (5名)
高橋圭一・河合 正
榎尾幸雄・松尾高英
水本ひでこ
(平成26年12月15日現在)

り組みは。

答 平成25年度の検診受診実績は、対象者に対し、乳がんは19.8%で、ほぼ県平均。子宮頸がんは21.5%で、県平均を少し上回っており、県内12市中、いずれも5位である。受診を促す目的で、平成21年度より無料クーポン券を一定年齢の方に郵送している。平成26年度は、乳がん検診は40歳の女性、子宮頸がん検診は20歳の女性に対し郵送した。平成21年度から5歳刻みの該当年齢の方に無料クーポンを配布しているが、平成21年度以降、未受診者は約2万1,800人で、これらの方に再度無料クーポン券を送り受診勧奨に努めている。また、受診しやすいよう平成26年度は検診期間を1カ月期間延長し、5月から翌年2月末までとした。

問 国は50%を目標に、がん検診受診率向上に向け推進している。学校での授業を通して、がんに関する知識を学び理解すれば、命の大切さと同時に、大人になってからのがん検診等の受診率向上にも繋がると考える。学校教育で、がん教育を実施すべきでは。

答 小・中学校では、がん予防に特化した授業は実施していないが、保健の授業の中で、病気の発生要因や予防の方法について学習している。平成27年度から使用する教科書には、がんについて、要因や検診による早期発見の大切さについての明記がある。中学校の教科書では、「がんを防ぐための12カ条」と題し、個人が意識的に取り組めるように記載されている。

問 妊娠や出産の母と子をサポートする産前・産後ケアは